

《薬局サーベイランスコメント》

『インフルエンザの推定患者数は5週連続して増加が続いており、11月中に全国的な流行開始となる可能性が高い』

2016年11月21日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

薬局サーベイランス (<http://prescription.orca.med.or.jp/kanjyasuikei/index.html>) によると、今シーズン（2017/2018年シーズン）の2017年第46週（11月13～19日）のインフルエンザの推定患者数は22,088であり、第42週以降5週連続して増加が続いています。全国的な流行開始の基準である「週あたり推定患者数=30,000/week」に近付きつつあります（図1）。また、休日明けの月曜日（11月20日）の推定患者数は6,521と、今シーズンの1日当りの最多数を更新しており、第47週以降もインフルエンザの患者数の増加は継続し、11月中に基準値を超えて流行が開始となる可能性が高まっています。

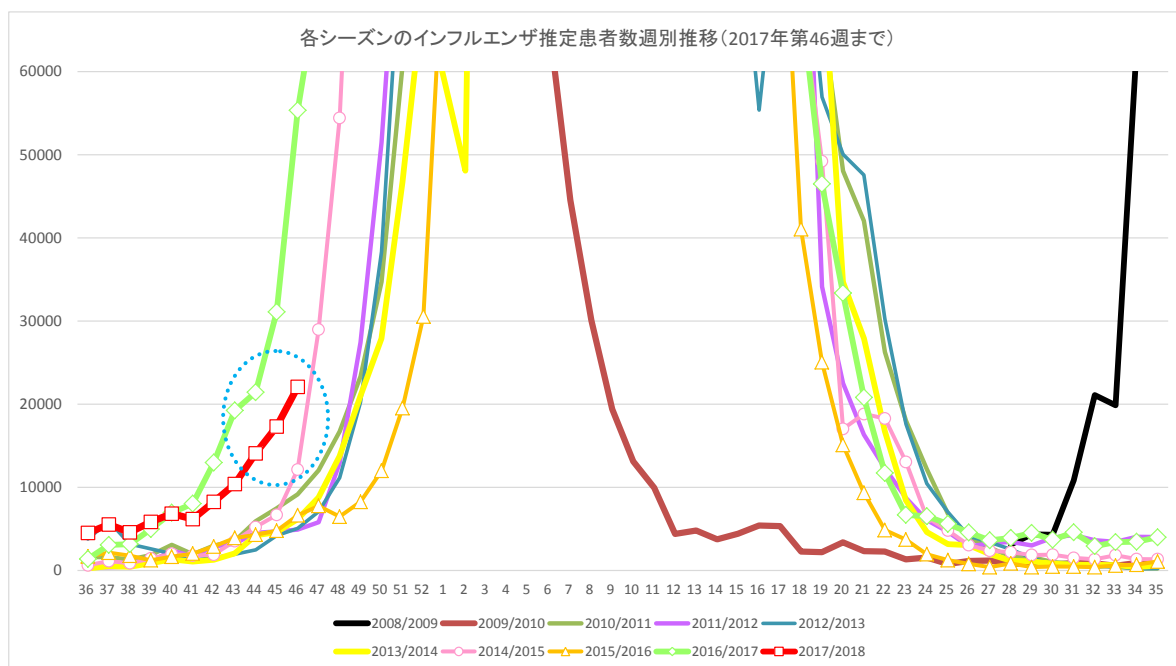


図1. 過去7シーズンと今シーズン（2017/2018年シーズン）の第36～第46週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

各都道府県別の第46週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると福井県、沖縄県、北海道、長崎県、大分県、石川県、宮城県、宮崎県の順となっていて、九州地

方は全国平均値を上回っている地域が多くなっています。

2017年第36週から第46週までの累積の推定患者数は105,587であり、年齢群別では5～9歳（18.9%）、0～4歳（13.4%）、30～39歳（12.3%）、40～49歳（12.3%）、10～14歳（11.0%）の順となっていて、10歳未満の年齢層の割合が高まりつつあります（図2）。

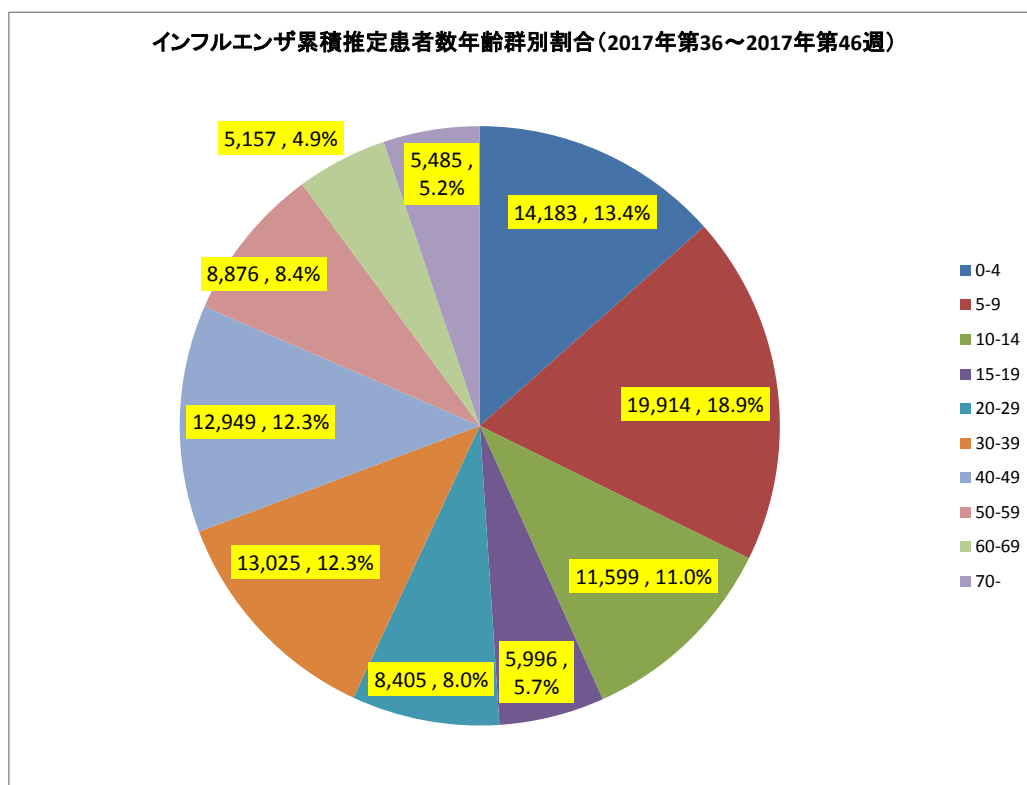


図2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2017年第36～2017年第45週、累積推定患者数=105,587）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（185検体解析）は、A/H3（A香港）亜型が37.8%、A/H1pdm 37.3%、B型24.9%の順となっています（図3）。

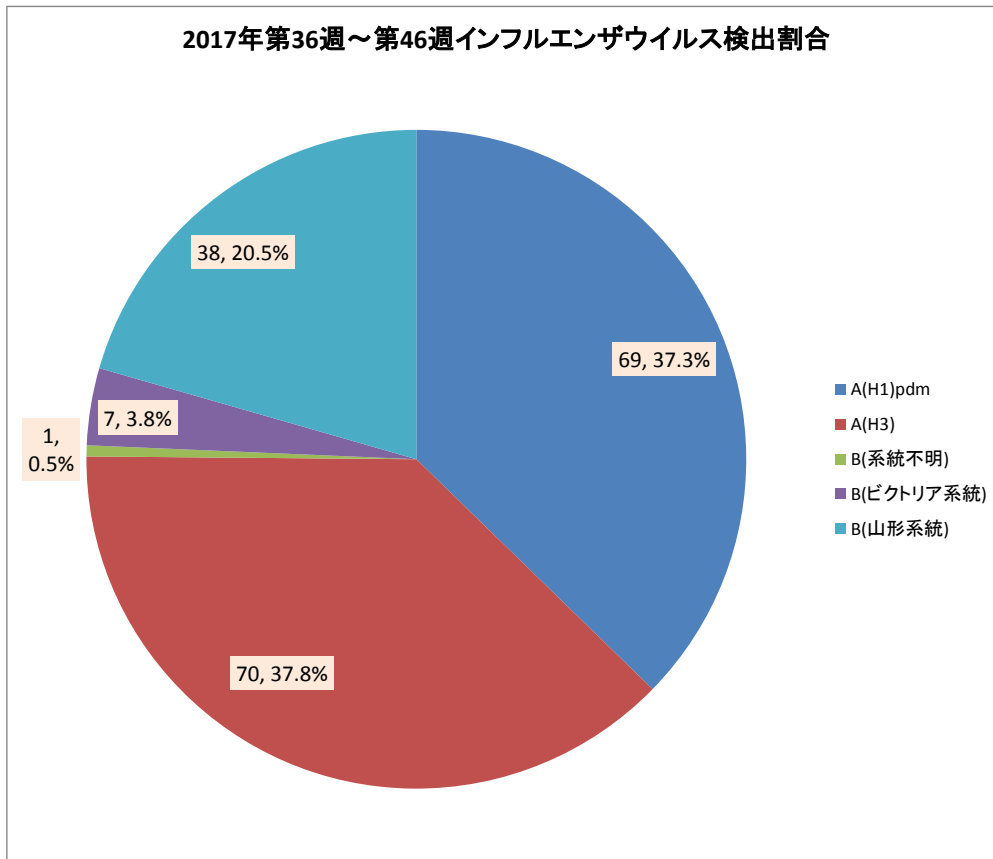


図 3. 2016 年第 36～2016 年第 44 週インフルエンザウイルス検出割合（総検出数=185）

今シーズンのインフルエンザ患者発生数の増加が続いており、全国的な流行開始の時期は近付きつつあります。今後ともインフルエンザの患者発生動向については注意が必要です。